

2010年1月14日

報道関係者各位

No.58108

株式会社東陽テクニカ

LTE eNB (evolved Node-B)負荷パフォーマンス試験ラインナップを拡充  
イタリアPrisma Engineering社と代理店契約締結

株式会社東陽テクニカ(本社：東京都中央区、代表取締役社長 渡辺 洋介、以下東陽テクニカ)とイタリアPrisma Engineering srl.(本社：イタリア・ミラノ、CEO Dr.Sergio Troni、以下Prisma)は、LTE eNB(evolved Node-B)の負荷パフォーマンス評価システム販売における国内総代理店契約を締結しました。

Prisma社製LTE-UeSIM型は、被試験対象であるLTE eNB (LTE基地局) に多数のLTE端末がアクセスする環境を擬似し、呼処理、OFDMAスケジューリング性能評価をおこないます。様々な無線アクセス・プロトコルも内蔵し、LTE eNBを無線、ネットワーク側双方から挟み込む試験にも対応します。検証スピードの加速と基地局性能の向上に寄与します。

Prisma Engineering srl.社

Prisma社は1999年にGPRS無線基地局負荷パフォーマンス評価システムをリリースして以来、一貫してUMTS / WiMAX 基地局向けマルチ端末 / スケーラブル負荷パフォーマンス評価システムを開発、提供しております。2009年12月には、フランスのeNBメーカーを開発協力客先としてLTE eNB基地局向けラインナップを拡充、製品をリリースしました。

多数のLTE端末からのサービスリクエストを処理しなくてはならないeNBのパフォーマンス評価を容易にし、ユーザのQoE (Quality of Experience) の向上に寄与します。

Prisma社 LTE-UeSIM型 LTE eNB負荷パフォーマンス評価システム

- 発売開始時期 : 2010年1月
- 価格 : システム構成による。5000万~
- 2010年販売目標 : 5ライセンス、4億円
- 予定販売客先 : 携帯網事業者、各基地局装置開発メーカー

東陽テクニカのLTE市場に対する取組み

東陽テクニカは20年に渡り、第2世代携帯から現行第3.5世代の携帯端末・ネットワーク開発に向けて、TAS社(現Spirent communications社)製品他のソリューションを提供し、日本の無線通信技術の革新の一翼を担ってきました。

東陽テクニカは無線通信端末からeNB、ePC (evolved Packet Core)、IPコアネットワーク、IMS (IP Multimedia Subsystem)、L4-7アプリケーションなど幅広い試験ニーズをカバーし、LTE one stop shopを目指し製品ラインナップの拡充、販売を進めてまいります。

---

用語説明：

**LTE**： Long Term Evolutionの略。3GPP団体が制定する携帯電話の新通信方式（Release8）で、複数アンテナ接続による高速パケット通信や適応型通信レートを特長としており、第3.9世代（3.9G）とも呼ばれる。国内ではNTTドコモが2010年の商用サービスを目指して積極的に技術開発を推進し、KDDI、ソフトバンクモバイル、イー・モバイルも本技術を採用予定。

**3GPP**： 3<sup>rd</sup> Generation Partnership Project。旧来の音声通話が主流であった第2世代携帯端末から、メール、Webアクセスなどを可能にするパケットデータ通信機能を持たせた第3世代端末の技術仕様を策定。通信方式等は各種リリースバージョンによって仕様化され、現在NTTドコモ、イー・モバイル、ソフトバンクモバイルが採用しているW-CDMA技術はRelease 99、高速データ通信（HSPA）はRelease 5でそれぞれ規定されている。

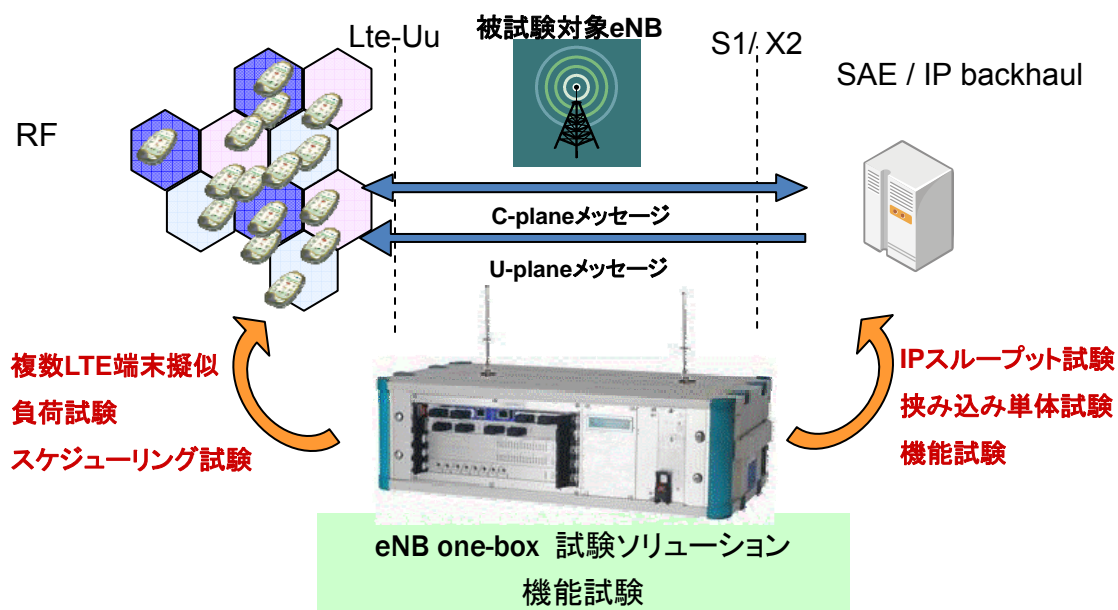
**eNB**： evolved Node-B。LTE無線アクセスネットワークの中心装置で携帯端末と無線送受を行い、無線リソースの管理、制御を行う。また制御信号、IPデータ信号をePC各ノードに転送し、IPヘッダの圧縮・秘匿化、端末の移動測定などを行う基幹装置。W-CDMAではNode-B、RNC (Radio Network Controller)と別々のノードに分かれていた機能がeNB一台に集約されている。

**ePC**： evolved Packet Core。LTE通信サービスの有線コアネットワークを指す。無線端末がインターネットや無線通信事業者のサービスネットワークにアクセスできるよう、発呼・着呼や認証といった管理制御、データ転送、ローミングなどの多彩な機能を提供する。従来のコアネットワークと比較して簡潔なネットワーク構成をしており、信号転送技術にIPを利用することでLTEの特徴である低遅延、広帯域を実現する。

**OFDMA**： フルスペルはOrthogonal Frequency Domain Multiple Accessで、直交波周波数分割多重アクセス方式の事。LTEの場合、15KHz毎の周波数ブロック（サブキャリア）を複数端末に割り当て、かつ時系列にスケジュール管理を行う事で、一度に集約、通信できる端末数を増加させる技術。eNBが本スケジュール管理を担う。

**IMS**： IP Multimedia Subsystemの略。将来のAll IPネットワーク化に備え3GPPで策定。音声やビデオなどのマルチメディアデータを、パケット交換網で統括して提供するための仕組み。従来携帯通信網では音声は回線交換網、データはパケット交換網と異なるネットワークを使って提供されていた。LTE では音声もデータも IP ネットワーク上で統合して扱うので本技術がコアとして利用される。

---



画像：製品写真及び試験イメージ図

本ニュースリリースに関するお問い合わせ先  
株式会社東陽テクニカ 情報通信システム営業部 LTE担当  
Tel: 03-3279-0771、Fax: 03-3246-0645 e-mail: [lte@toyo.co.jp](mailto:lte@toyo.co.jp)  
LTE評価ソリューションHome page: <http://www.toyo.co.jp/lte>

当社に関するお問い合わせ先  
株式会社東陽テクニカ 経営企画室  
Tel: 03-3279-0771、Fax: 03-3246-0645 e-mail: [kikaku@toyo.co.jp](mailto:kikaku@toyo.co.jp)

※ 本リリースに記載された社名および製品名は各社の商標または登録商標です。